



男性教職員の育児休業取得体験談



～男女ともに育児休業等を取得することが当たり前の社会を目指して～

学校の支援と工夫について

令和7年12月

育児休業を取得された男性教職員の体験談の中には、学校や管理職の支援体制への感謝の言葉が多く寄せられていました。また、育児休業を取得するに当たって工夫したこともたくさんありました。そこで、育児休業を取得した男性教職員が在籍する学校でどのような支援がされていたか、どのような声かけ等があったか、また、本人がどのような工夫をしていたかを、いただいた体験談よりピックアップしてみました。



支援

- ・同僚の先生が学級に入り、授業等を通常通り行ってくれた
- ・管理職や同僚が、育児休業を取得することに対して快く背中を押してくれた
- ・育児休業を取得することを言いやすい雰囲気が職場にあった
- ・学校全体で前向きに受け止め、応援してもらった
- ・育児休業を取得した前例があった
- ・スムーズに育児休業を取得できるよう、管理職や事務職員が尽力してくれた
- ・管理職に取得を勧めてもらった

声かけ

- ・「しっかり育児に専念してね」
- ・「どのくらい育休取るの？」（育休を取る前提の声かけが嬉しかった）
- ・「子育て楽しんでね」
- ・「子どもとの時間を大切にして、育児頑張ってるね」
- ・「お父さんとお母さんの代わりはおらんきね」
- ・「しっかり子どもみちゃってね」
- ・「職場のことは気にせず、奥さんと子どものために育休取ってあげて」



工夫

- ・育児休業を取得することを早めに決めた
- ・育児休業を取得したいということを、早い段階で管理職に伝えた
- ・育児休業を取得したいということを、年度が替わる前に管理職に相談した
- ・担任業務や校務分掌の引継ぎを計画的に行った、スムーズに引継ぎができるよう準備した
- ・自身が不在の時の動き、担当学級の保護者へのお知らせ、復帰後の動きの確認を行った
- ・担任不在の中でも自分たちで動ける学級経営を行った



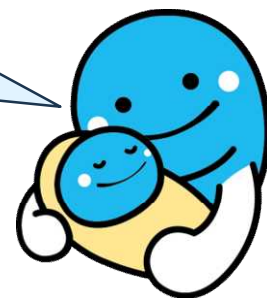
各学校で、授業や学級経営への支援だけでなく、教職員の気持ちに寄り添う配慮が見られています。そして、会話の中での何気ない一言が、育児休業の取得を後押ししたり、悩んでいる気持ちを和らげたりしている様子もあります。

また、育児休業取得前に様々な工夫をすることで、学校の体制づくりや引継ぎなどがうまくでき、安心して休むことができるようになっていきます。

日々の教育活動の充実を図りながら、子育て世代の教職員が安心して子どもを生み、育てられるよう職場の中で協力し、教職員がパートナーとともに共働き・共育てができる環境づくりに、引き続き取り組んでください。

育児休業の取得を迷っている方の背中を押し、サポートできるように、育児休業を取得された男性教職員の体験談を紹介しています。

今回は、令和6年度に育児休業を取得した男性教職員うち10名の方の体験談をご紹介します。（体験談のご提供、ありがとうございました！）



■育児休業を取得しようと思ったきっかけや育児休業を取得するために準備したこと、取り組んだこと、苦労したことは？周囲の反応や周囲に感謝したことは？

育児休業を取得しようとしたきっかけは、子どもの成長をいちばん近くで、そして自分の目で成長した瞬間を見たかったからです。また、教育する立場なのにも関わらず自分の子どもの育児より仕事を優先することはおかしいと思ったからです。

年度の切り替わりということもあり、特別、他の先生方にお任せした仕事はなかったですが、育休を受け入れてくださって助かりました。ただ、一部の方からは「男性が・・・」という言葉もかけられたことは事実としてありました。

育児に積極的に参加したいという気持ちをもっていましたが、職場に迷惑をかける気がして迷っていました。そこで管理職から育休取得を勧めていただき、取得することを前向きに考えることができました。育休取得に関して、学部やクラスの生徒、学校全体で前向きに応援していただき、支えてもらったことに感謝しています。

準備したことは、休暇中の仕事の引継ぎ、参加が必要な会の日程調整（育休に被らないように）等、育休に合わせて住居を一緒にしたため、家具の整理や育児に関する情報を集めました。

妻が職場に復帰をしなければいけない状況だったので、やむを得ず取得することになりました。職場の先生方に迷惑がかかると思い、正直、心苦しい面がありましたが、校長先生をはじめ、先生方に言いやすい雰囲気为学校にあったので、本当にありがたかったです。

苦労ではないですが、ミルクとおむつのローテーションが意外と早く、やることも多く、1日があっという間だったという印象があります。

初めての子育てで、妻に負担をかけていた。妻から「育休を取得してほしい」と相談があり、4月・5月と、急遽、育児休業を取得した。また、以前の勤務校で、同じ部活動を担当する職場の先輩男性教員が先に育児休業を取得していたこともあり、育児休業を取得するきっかけにもなった。

職場への相談が前年度2月だったこともあり迷惑をかけたが、職場内では「子どもとの時間を大切にして、育児頑張ってるね」などの温かい言葉をかけてもらい感謝している。

妻の実家が遠く、子育ての協力が難しかったため取得した。妻の職場復帰や、子の慣らし保育等へ協力した。



【きっかけ】

2人目の子どもであったため（長女の世話や家事分担等）

【苦労したこと】

1か月と少ない期間での取得であり、講師等もつかなかったため、引継ぎ等で苦労したり、周りの先生方に迷惑をかけたりした。

本当は長期の育児休業を取得したかったが、給与等に影響が出るため、やむを得ず1か月だけ取得することとなった。

育児休暇を取得しようと思ったきっかけは、2歳の娘がいて、次に生まれてくる赤ちゃんの育児の負担を考えると、奥さんに大きな負担をかけてしまうと思ったからです。私としては「自分が家族に対してできる精一杯の努力はしたい」という考え方でしたので、いろいろと悩んだ末に取得することに決めました。決心後は校長先生をはじめ、事務長、担当の方が育児休暇までスムーズに取得できるように尽力してくださったおかげで、ストレスなく育児休業を取得することができました。自分が休むことで同僚の先生方に迷惑をおかけするという不安もありましたが、私の場合は仕事と家庭生活の両立を目指し決意しました。

3人目ということで子育てが忙しくなること、夏休み期間で休みがとりやすかったということもあり、育児休業をとることを決めました。

育休をとるにあたっては管理職の先生をはじめ、クラスや分掌の先生方からも積極的に取りやすい環境を整えて貰えたので非常に感謝しています。

3人目のこどもで、1人目、2人目の時には育児休業を取得していなかったもので、取得しようと思いました。取得するために仕事の引き継ぎをしっかりと準備を進めましたが、うまくいっていない部分もありました。

取得するにあたって、快く受け入れていただいたと感じられたので、取得しやすかったです。



- ・子供が生まれたら取得しようと思前から考えていた。
 - ・自分も妻も初めての育児で分からないことが多く苦労した。
 - ・育休中は手当はあるものの、収入は大きく減るので金銭的に厳しかった。
 - ・職場の先生方には大変ご迷惑をおかけしました。
- 人が減る分のしわ寄せもかなりあったのではないかと思います。

■育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと、これから育児期をむかえる教職員に対してのメッセージ

育児休業を取るまでは、正直、育児の大半は妻に任せていたと思います。心のどこかで、自分は外で頑張って働いてくるから家の方はお願いね、という気持ちがあったと思います。しかし、育児休業を取ってみて、育児の喜びや妻の大変さがよくわかりました。そのことがわかっただけでも育休を取って良かったと思います。

これからも、二人で協力しながら育児をしていきたいと思っています。

初めての育児で不安はあったものの、妻とともに二人で育児に向き合えることの安心感は大きく、とても貴重な機会となった。

赤ちゃんの成長の早さは本当に早く、昨日と今日、今日と明日で毎日違った感動がたくさんあります。その成長をそばで見つめ、家族とともに喜べることは、何事にも代えがたい価値のあることだと思います。

ワンオペで、食事、入浴、睡眠等に取り組み、育児のひと通りの流れを知ることができた。

いちばんは子どもの成長をリアルタイムで妻と一緒に見れたことです。寝返り、寝返り、寝返り、「パパ、ママ」と呼んだ時、立った時、歩いた時などその感動は一生忘れません。

他の教職員の方に伝えたいことは「絶対に取るべき」だということです。仕事が大変なのはわかりますが、我が子の成長を見れるのは今しかありません。何より初めて出来た時の感動は一生体験できないです。

僕は仕事でクラスの子の成長を見るよりも、我が子の成長を生で見ることが自分自身、親として見届けてあげてほしいと思います。

育児休業中は午前中には支援センターに行き、午後にはこどもと散歩などをして過ごしました。育児休業の対象のこどもというよりは、休日にずっと私がいるので、兄弟のほう喜んでくれました。その姿を見て、取得してよかったなと思いました。

普段は子供が起きる前に自宅を出発し、帰宅後もあまり子供と関わる事ができず、日々時間に追われていました。

しかし、育休を取得したことで生まれた赤ちゃんとの時間はもちろんですが、上の子たちとも一緒にいれる時間が長くなり、子供たちの成長に向き合うことができました。

1人目の出産の際には育児休業を取得していなかったため、育児休業を取得することで、我が子の成長をより感じる事ができた。

育児休業を取得して1番良かったことは家族との時間を一緒に長く過ごせたことです。育児休業を通じて私は初めて「夫婦の助け合い」という言葉の本当の意味を実感したように思います。育児は自分一人ではできないことが多く、奥さんや、奥さんの両親に助けってもらうことでなんとか回すことができました。その経験の中で改めて「夫婦で助け合って生きる」という意味を教えてもらったように思います。

育児休業を取ることでしかできない経験もあると思うのでぜひ取ることをお勧めします。

子どもと向き合う時間が増えたことで、妊娠・出産・育児の負担を抱えていた妻の悩みや大変さに、気づくことができた。また、自身の仕事に対する考え方も変化した。「目の前の生徒のために仕事をする」という考え方だったが、「家族との時間を確保するために、生徒の様子を把握し即時即応の対応を心がける」ようになった。

育児休業を取得する際には、職場に残された人の仕事の負担感などを考えてしまうと思うが、気にしなくていいと思う。教育に携わる人が職場にいたので、育児休業への理解は高い。温かく送り出してくれる職場がほとんどだと思う。だから、育児休業を積極的に取得すると思う。

子供との時間をたくさんとることができたことと、それに合わせて、子供の成長を感じる場面に多く立ち会えたことが一番良かったです。また、その喜びを夫婦で共有できたことも素敵な時間を過ごせたなと感じています。

育児休業を取得したことで、仕事をしている状況より、1日を通して育児に参加できたことで、大変さも感じる事ができました。その中でも、父親としてできることはたくさんあることに気づく事ができました。

子育ては、本当に大変なことだと思います。でも、私は毎日、娘のいろいろな表情、たくさんの動き、成長を夫婦で見ることができたことで、とても楽しく幸せな時間を過ごせたと思っています。楽しさも大変さもたくさんの貴重な体験ができたと感じています。

「お父さんとお母さんの変わりはおらんきね。」と声をかけてくださった先生方に感謝しながらも、本当にそうだなと実感した1ヶ月間でした。育児休業の素敵さをどんどん広げていきたいです。ぜひ、皆さんも、今しか過ごせない素敵な時間を過ごしてください。



■ 育児休業を取得したことについて、配偶者はどう思っている？

第二子出産にあたり、育児休業を取得してもらいました。夫が育児休業を取ってくれたことで、精神的にも体力的にもとても助かりました。男性の育児休業取得はまだまだ一般的ではない中で、夫が勇気をもって育休を取得してくれ、とてもありがたかったです。

この経験が家庭だけでなく、職場や社会にとってもよい影響につながれば嬉しいです。

非常に助かったといわれることが多々あります。夜泣き等で眠れない日などは日中、子どもの世話をしたり家事を分担したりというのと妻と一緒に協力して過ごすことができました。また、現在は復帰していますが「休みの日は安心する」という言葉もかけてもらっています。

育児は母親だけの役割ではなく、夫婦が親として協力していくべきだと感じました。

初めての育児を1人でするのは不安も悩みもあった。夫婦そろって育児ができることになったときには、とても安心したことを覚えている。育児休業期間に、仕事に対する価値観が「家族優先」に切り替わっていったり、子どもを連れて出かけたりと、夫婦の人生の大きな転換期になった。また、お互いに休憩しながら育児に向き合うことができ、笑顔で子どもと触れ合う時間が長くなったと思う。

これから育児期を迎える教職員の皆様も、育児休業を取得し、夫婦で子育ての楽しさを共有すると幸せを実感できると思う。

1か月という短い期間ではあったが、夫が育児休業をとってくれたおかげで心身ともに余裕をもって子育てをすることができた。自分自身の産後の回復のためにも、育児休業をとってもらってよかったと思う。

家族の時間が増えてよかったと感じています。

上の子の送迎を毎日してもらったり、少ししんどいときには息抜きに出かけたりすることができたので、育休を取得してくれて本当に良かったです。

上の子の送迎を毎日してもらったり、少ししんどいときには息抜きに出かけたりすることができたので、育休を取得してくれて本当に良かったです。

両親の支援が難しい中で、疲れたころに取得してくれて助かった。



私は産後1番しんどい時に夫が休みを取ってくれて本当にありがたかったです。食事を準備してくれたり、娘と遊んでくれたり、夜中の授乳で寝れてないので、昼間休ませてくれたり凄く助かりました。自分もイライラすることなく心に余裕を持って育児することができたと思います。

育児休業中に思ったことは、子どもとずっと家にいると社会から取り残された気分になることです。子どもは話ができないので「誰か大人と話がしたい」と思うようになります。その時には、妻の話を夫が聞いてあげること大切だと思います。



高知県では、教職員の子育てを支援するために、様々な休暇や休業の制度を設けています。

子どもが生まれる女性教職員だけでなく、父親になった（なる予定の）男性教職員も、こうした制度等を活用しながら、積極的に子育てを担い、親子の時間を大切にしましょう。

また、教職員が安心してこれらの制度を利用するためには、管理職や周りの教職員の理解と協力が欠かせません。教職員の皆さんが、こうした制度を理解し、子育て世代の教職員が安心して子どもを生み育てられる職場環境づくりに取り組んでいきましょう。

これまでの「男性教職員の育児休業体験談」を教職員・福利課のHPに載せています。ぜひ、ご覧ください。

【これまでの男性教職員の育児休業体験談はこちら→】

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2022051600174/>



発行：高知県教育委員会事務局教職員・福利課

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52

TEL：088-821-4901

E-Mail：310601@ken.pref.kochi.lg.jp